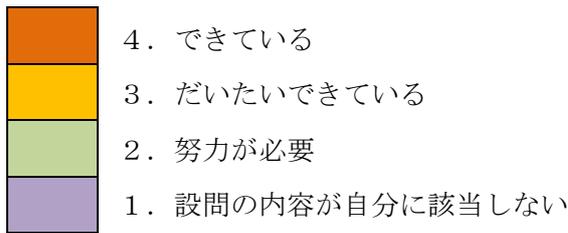


せいじ園「2025年度 自己評価に関するアンケート」集計結果

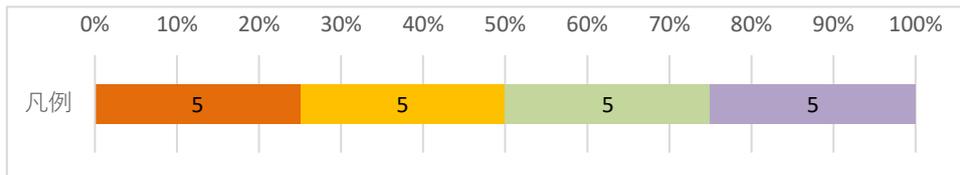
本年度も、以下の5項目および自由記述欄から構成される教職員アンケートを実施した。

- I 園の教育保育理念・基本方針に関して（1～5）
- II 子どもの保育に関して（1～13）
- III 保護者への対応に関して（1～9）
- IV 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して（1～6）
- V 能力向上の努力に関して（1～8）

それぞれの設問については、次の評点を選択する形で回答を求めた。



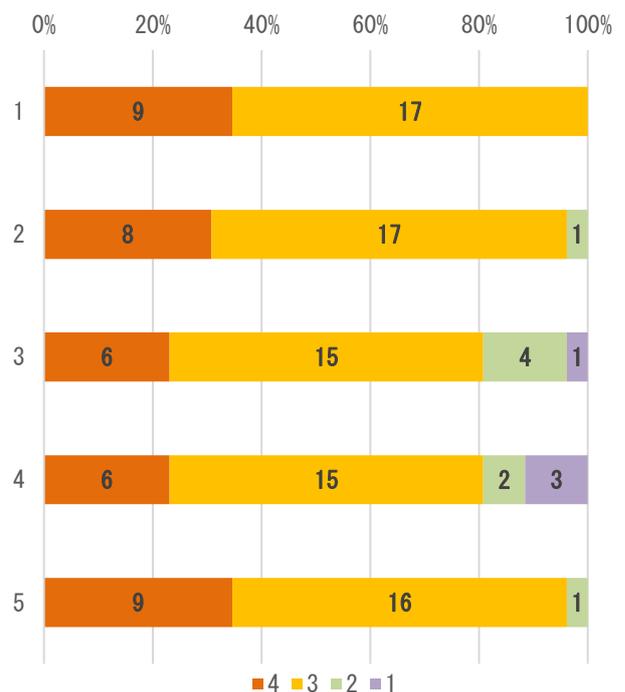
集計グラフ（グラフ内数字は各評点を選択した人数）



2025年12月下旬から2026年1月上旬にかけて、Microsoft Forms を用いてオンラインで本アンケートを実施した。該当教職員数は26名。回収率は100%である。集計は園長が行った。

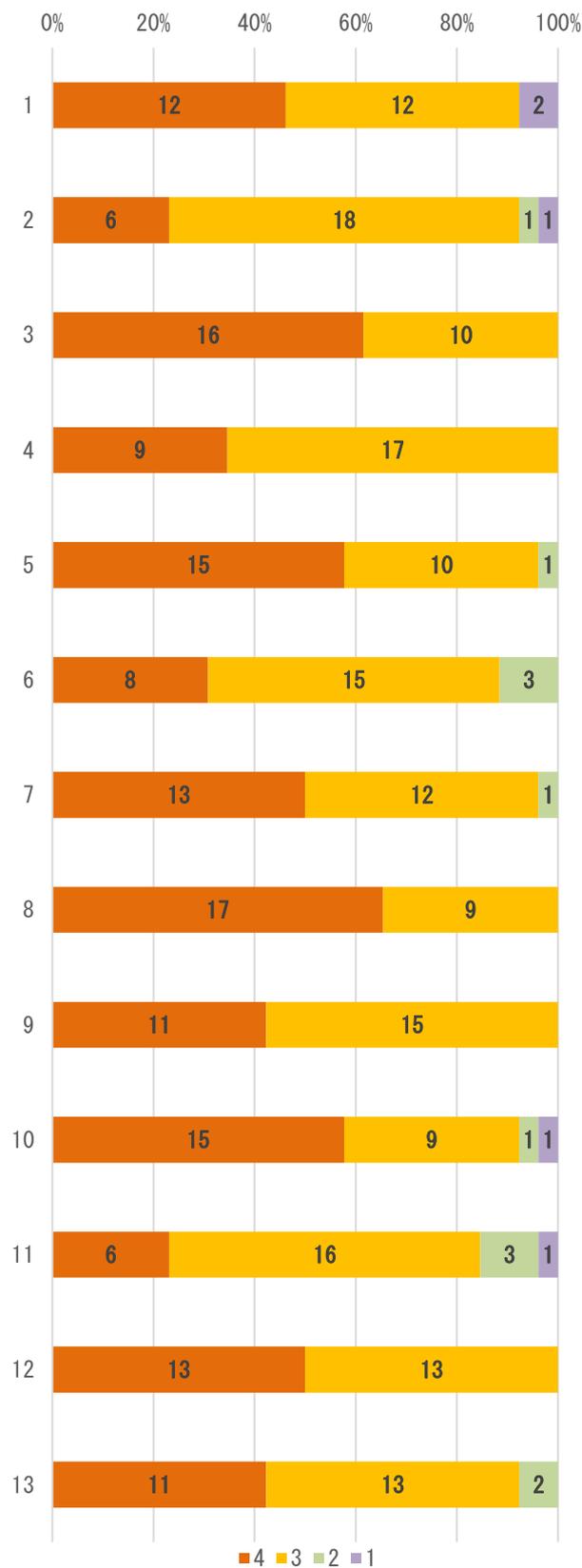
I 園の教育保育理念・基本方針に関して

①園の教育保育理念を理解している。
②園の教育保育三つの柱を理解している。
③園の今年度教育保育の努力目標を理解している。
④自分が担当する年齢の年間指導計画を理解している。
⑤園が目指す幼児の姿を自分なりにイメージできる。



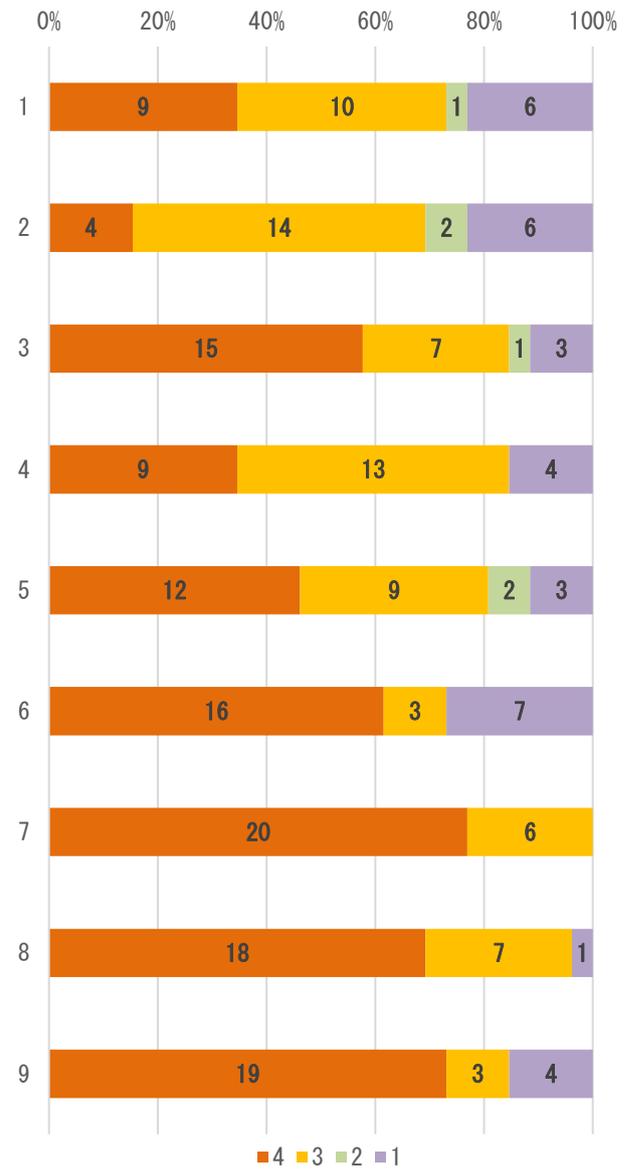
II 子どもの保育に関して

①登園時、担当する子ども一人一人の健康状態について十分に確認している。
②子ども一人一人の家庭環境や、発育・発達の状態について理解して接している。
③子どもの話によく耳を傾けるようにしている。
④子どもを尊重した、丁寧なわかりやすい言葉遣いを心掛けている。
⑤どの子どもにも感情のむらなく平等に関わるよう心掛けている。
⑥制止やせかす言葉を不必要に使わず、一人一人に合わせた対応を心掛けている。
⑦子どもをほめたり、励ましたり、子ども自身が意欲を持てるような言葉かけを心掛けている。
⑧子どもとの温かなやりとりや適度なスキンシップを心掛けている。
⑨子どもの言葉にならない思いやサインなどの心の動きを理解するように心掛けている。
⑩子どもとよく遊んでいる。
⑪子どもが遊びを深めていけるようなヒントやアイデアを提供するよう心掛けている。
⑫子ども同士の関係にも配慮して保育を行っている。
⑬保育者自身が、保育の中で神様への感謝の気持ちを持ち、それを言葉や態度で表現するよう心掛けている。



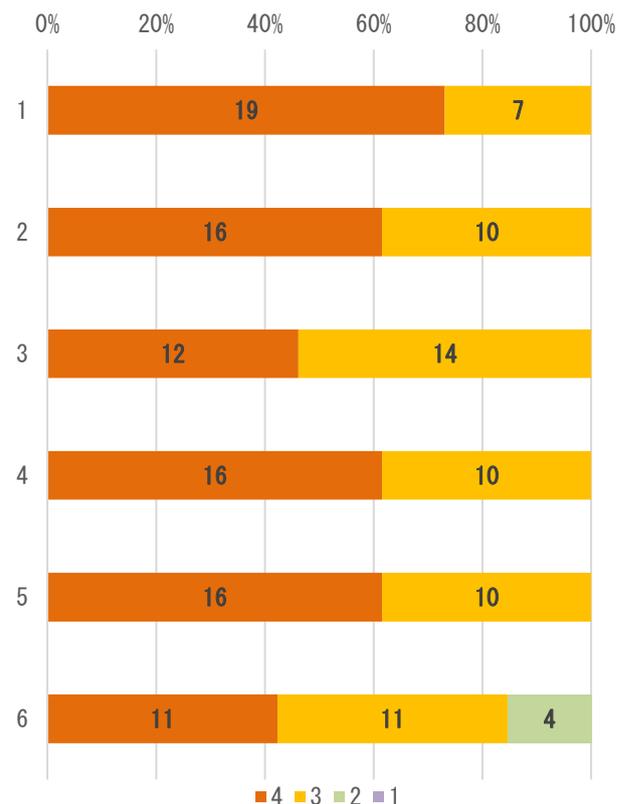
### Ⅲ 保護者への対応に関して

①子どもの様子について、直接話をしたり、電話・連絡帳などを使って保護者と情報を共有している。
②保護者から説明された各家庭での養育方針などに留意した保育を心掛けている。
③どの保護者にも平等に関わり、友だち同士のような態度で接していない。
④保護者が保育者との関わりを楽しみにできるような信頼関係づくりを心掛けている。
⑤保護者からの依頼や伝言については、記録を残し、抜けのない配慮をしている。
⑥保護者から苦情等があった場合は、よく話を聞いたうえで、上司に報告、相談をし、丁寧に対応している。
⑦教職員や園の批判を軽はずみにしたり、他の園児や家庭の個人情報を他言したりしていない。
⑧家庭環境や問題について知り得た重要な情報は、むやみに他言せず、上司に報告している。
⑨保護者からの要望、意見等について、安易に引き受けたり断ったり無視したりせず、上司に報告、相談をしている。



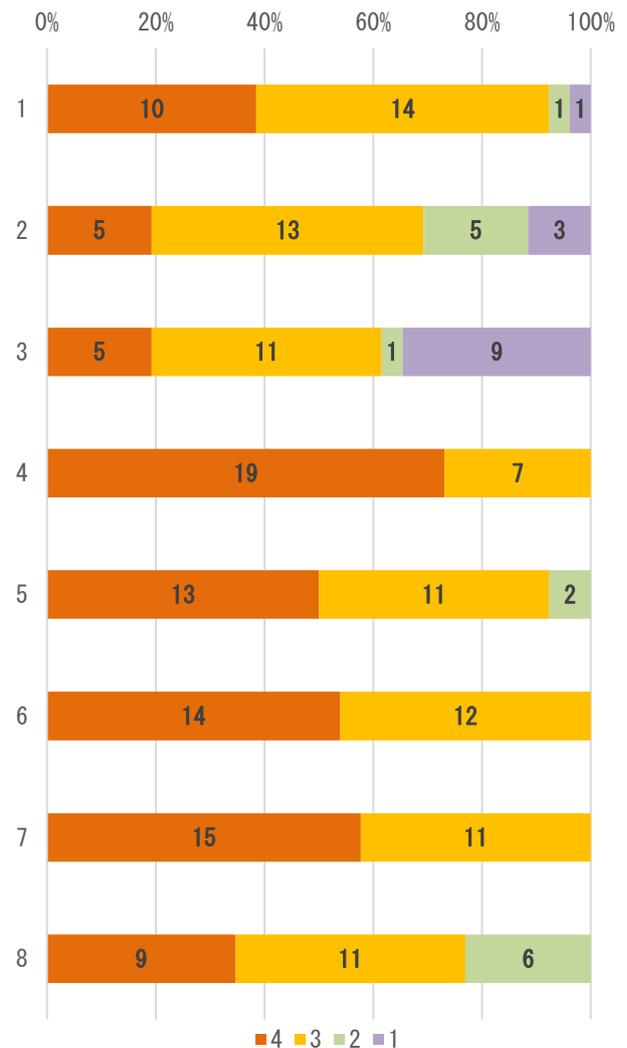
### Ⅳ 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して

①子どもの情報について、保育者間で共有すべきことは同僚・上司に適切に報告している。
②同僚から保育について相談を受けた時、誠意をもって耳を傾けるよう心掛けている。
③同世代だけでなく、年齢の違う同僚にも相談できる良好な関係を築いている。
④上司や同僚の助言を受け入れ、自分の考えや行動を見直すことができる。
⑤先輩、後輩等にかかわらず、誰にでも平等に尊重する関わり方をするように心掛けている。
⑥自分の考えや思いを上司や同僚に対して伝えている。



V 能力向上の努力に関して

①年度ごとに自己評価をし、自分なりの目標や課題を持って保育に臨んでいる。
②保育・教育に関する新しい取り組みや考え方について、情報を得ようと日頃から努力し、創意工夫に努めている。
③研修や研究会には自分なりの課題をもって参加している。
④保育者の言動が子どもに影響を与えることを自覚している。
⑤職場では正しく丁寧な言葉遣いを心掛けている。
⑥園生活全般における危険性を認識し、事故等の未然防止に日頃から努めている。
⑦服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心掛け、安全性にも気をつけている。
⑧回覧される月刊誌『キリスト教保育』や保育の参考文献を読み、自身の保育への参考を得るよう心掛けている。



【自由記述欄】

以下の設問に対し、26名が回答を記載した。

1. 保育に関する自分自身の目標や課題が今年度どれくらい達成できたか、ご自分の考えをお書きください。
2. このアンケートに関する意見、園の保育や運営に関する意見などがあればお書きください。
3. その他

重複する内容や個人が特定され得る内容、謝辞や個人的な感想等は省略し、長いコメントは要約または一部抜粋したうえで以下に転載した。

1. 保育に関する自分自身の目標や課題が今年度どれくらい達成できたか

- ・ 昨年の自分の保育を参考にしながらより良くできるように考え、相談しながら保育を行った。昨年とは状況が違うこともあり、うまくいかないことも多く、達成できたとは言いがたいと思うが、新たな課題も見えてきた。
- ・ 昨年の反省を生かし、保護者が園に求めるものに寄り添いながらも、園としての思いを伝えていけるように心掛けた。まだ、探りながらではあるが、昨年反省したことは改善できた点もあったと感じている。
- ・ 自分の意見を相手に伝える、遊びの引き出しを増やす等を目標にしていた。周りの先生方にアドバイスをもらい努力することができた。

- ・今年度の目標は、保育の流れや仕事内容を覚えること、個々に合わせた関わりをしていくことだったが、行事が近づくとつい子どもたちをせかして、活動に気が向くように必要以上に声をかけてしまうことがあった。保育者が冷静になり、その子に合わせた丁寧な関わりを心掛けていきたい。
- ・今年度は、子ども一人一人に寄り添った関わりを大切にすることを目標として保育に取り組んできた。特に、活動の導入や声掛けの仕方について意識することで、子どもたちのやる気や興味を引き出す関わりが少しずつできるようになってきたと感じる。
- ・すべての子どもに愛情をもって温かく関わることを目標に保育に励むことができた。
- ・言葉で思いを伝えることができない年齢だからこそ、気持ちを汲み取る援助がどれだけできるかを考えて保育をしている。どれだけ達成できているかわからないが、低年齢だからこそ配慮しなくてはならないと感じたことを保育に活かそうと努力している。
- ・温かく優しい気持ちで子どもと関わってきた中で、どういう言葉掛けや接し方が必要なのかを考えながら日々保育を行うことができた。
- ・子ども一人一人へ耳を傾け、気持ちを受け止めて対応することを目標としているが、今年度は前年度よりも気持ちを理解し、保育者同士で話し合いながら対応できた。
- ・進級当初は子どもたちの迫力に圧倒され、どうしたらよいのかわからなくなってしまったこともあったが、発達や特性からどのように対応したらよいか、毎日反省を繰り返しながら根気強く関わることで、少しずつ話し合いや相手の気持ちを聞くことの大切さに気づく子の姿が見られるため、今後も努力したい。
- ・今年度は情報交換ができるようになることを目標にした。周りの先生方と情報を共有し、子どもの成長を一緒に喜び合うことができた。普段から関係性を大事にすることが大切であると改めて感じる1年となった。

## 2. このアンケートに関する意見、園の保育や運営に関する意見など

- ・アンケートを行う中で保育や保育士間、保護者対応について振り返ることができた。
- ・毎日忙しくて大変なことが多々あるが、協力し合うことで、忙しい中にも楽しさのある職場にした。
- ・3歳未満児クラスは、主担当の先生の人数が少ないので、シフトの時間が毎日変わり大変であると感じる。また、3歳未満児クラスでも早い時間から遅い時間まで保育する子が増えているため、保育の質を保ち、どの時間帯であっても常に子どもたちのことを考えて環境構成をしていかなければならないと考える。
- ・アンケートは自分を振り返る良い機会だと思う。
- ・園の書類を改善する必要があるのではないかと思う。日誌と連絡帳の処理に時間がかかり、休憩時間も体を休める時間になっていない。
- ・時代の変化と共に働きやすい職場環境になってきたと感じているが、他園に比べると様々なシステムの導入遅れや不足があると思う。ICTを使った書類管理や業務改善がさらに進むことを期待したい。
- ・夕方の合同保育に関して、シフトの関係で保育者が抜ける場合、子どもの人数によっては学年で話し合っただけで保育に入ってもらいたい。

## 3. その他

なし

## 園長所見

アンケートを実施した対象人数は26名である。あくまでも「自己評価」であり、一人一人の教職員が各項目に関する評価を主観的に判断した数値の集計である。

昨年は、5「できている」4「だいたいできている」3「あまりできていない」2「できていない」1「設問の内容が自分に該当しない」の1～5で評価したが、今年度は、昨年度の3「あまりできていない」2「できていない」を3「努力が必要」にまとめ、1～4の評点とした。

自分の評価を肯定的にみることで客観的に自分の努力すべき点が見えたように思う。以下、特徴的なこと、留意すべきこと等、園長の所見を述べる。

### I 園の教育保育理念・基本方針に関して

園全体の教育保育理念や基本方針の理解について、昨年度は「できている」「だいたいできている」を合わせて70%程度であったが、今年度はどの項目においても「できている」「だいたいできている」が80%以上となった。また、③「園の今年度教育保育の努力目標を理解している」④「自分が担当する年齢の年間指導計画を理解している」も今年度は80%を超えている。このことから、ほとんどの保育者が園の教育保育理念・基本方針を理解して保育にあたっていることが読みとれる。しかし、本来ならば全員が「できている」と答えてほしい設問であるため、子どもに携わる保育者全員が理解できるような方法（掲示等）を取り入れ、工夫していきたい。

### II 子どもの保育に関して

今年度は、新たに⑥「制止やせかす言葉を不必要に使わず、一人一人に合わせた対応を心掛けている」⑨「子どもの言葉にならない思いやサインなどの心の動きを理解するように心掛けている」⑩「子どもとよく遊んでいる」の設問を加えた。

昨年度は、ほとんどの項目において少数ながら「あまりできていない」の回答があったが、今年度は、13項目中6項目において「できている」「だいたいできている」という回答になった。これは、保育者たちの努力とあってよいと思う。

「努力が必要」とされた項目においては、自分自身の保育を客観的に見ているためであると思われるが、今後も保育者自身が心掛けて保育にあたってほしい。

### III 保護者への対応に関して

今年度は新たに、④「保護者が保育者との関わりを楽しみにできるような信頼関係づくりを心掛けている」を追加した。質問が自分に該当しない保育者以外全員が「できている」「だいたいできている」と答えている。保護者との信頼関係を築くことは、子どものより良い成長につながるため、今後も保育者自ら心掛けてほしい項目である。

また、①「子どもの様子について、直接話をしたり、電話・連絡帳などを使って保護者と情報を共有している」②「保護者から説明された各家庭での養育方針などに留意した保育を心掛けている」において、「努力が必要」と答えた人数が、昨年度に比べて減少した。しかし、③「どの保護者にも平等に関わり、友だち同士のような態度で接していない」⑤「保護者からの依頼や伝言については、記録を残し、抜けのない配慮をしている」は、「努力が必要」とされる人数が少人数ではあるが増加した。要因を探り、見直していきたい。

#### IV 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して

6項目中5項目において「できている」「だいたいできている」で100%を占めている。職場内のコミュニケーションが良くとれていることが理解できる。また、昨年度は⑥「自分の考えや思いを上司や同僚に対して伝えている」が70%であったが、今年度は85%に増加したことから、職場内での対話ができていることが読みとれる。しかし、「努力が必要」と答えた保育者も4名いたため、4名の思いを汲み取る働きかけも試みながら働きやすい職場づくりを目指していきたい。

#### V 能力向上の努力に関して

概ね昨年度と同様の結果である。長期的な目標を持ち、自分自身の保育の質を高めるための努力項目②「保育・教育に関する新しい取り組みや考え方について、情報を得ようと日頃から努力し、創意工夫に努めている」③「研修や研究会には自分なりの課題をもって参加している」等においては、「できている」が20%である。煩雑な業務の中ではあるが、保育者たちが自分の保育を見つめ直し、能力向上の意欲につながるような機会や自分自身と向き合う時間、ゆとりの時間を確保する方法を検討したい。

#### 【自由記述】

今年度の自由記述欄は、3つに分けて記載してもらったが、1.「保育に関する自分自身の目標や課題が今年度どれくらい達成できたか」については、ほとんどの保育者が、自分の担当や置かれた環境の中で、同僚や上司と相談しながら、より丁寧な質の高い関わりを心掛けたことが理解できた。このことから園全体のコミュニケーションが丁寧に図られていることが認識できる。

しかし、標準時間（11時間）を園で過ごす低年齢児も増加する傾向にあり、一人一人に丁寧な保育を行うためには、ゆとりをもった人的配慮や業務の効率化を図るための様々な手立てを前向きに検討していく必要がある。

このアンケート結果の主な部分をホームページで公開するとともに、結果を園内においても共有し、話し合いながら環境の改善に役立てていきたい。